

令和3年12月27日

山形市長 佐藤 孝弘 殿

山形県看護連盟
会長 伊藤 加代子



要望書提出について

山形県看護連盟は、令和3年9月、新型コロナウイルス感染症の第5波の真ただ中で奮闘する全会員916名に対し、実態把握のためのアンケート調査を実施しました。

調査結果から、いくつかの課題が明らかとなりました。

1. 看護職は、コロナ禍により自粛生活が続いており、医療職ということで家族に対しても自粛を強い
ている状況がある。地域住民の行動に対しても敏感であり、感染対策の不徹底やワクチンに関す
る知識不足を懸念する声も多い。また、市民の3回目ワクチン接種についてスムーズな実施を求
めている。
2. 県内の看護職の人材不足は以前からあり、コロナ禍により深刻な状況に陥っている。現場では多
重業務により勤務変更や時間外勤務の増大があり、新人育成にかかる時間も十分に取れない状
況がある。看護の質と安全性の確保のための人材確保とともに新人の離職対策も必要である。
3. 看護職配置の少ない中小規模病院や精神科病院、高齢者施設、訪問看護ステーション等は、施
設内での陽性者やクラスターが発生した時の支援体制に不安を持っている。
4. 業務量に見合った給料になっていないという声が多かった。11月、政府では、看護職、介護職、
保育士の処遇改善の方針を打ち出している。当県は、公的病院が多く看護職の処遇について
は県立病院の方針決定に左右される状況がある。

以上の課題より、下記のことを要望し、自らの危険を顧みず業務に従事している看護職に、ご理解
をいただきますようお願いいたします。

- | | |
|-----|---|
| 要望1 | 今後の感染拡大に備え、市民への更なる感染対策の徹底やワクチンに関する情報発信の強化をお願いしたい。また、市民のワクチン3回目接種にかかわる実施体制について、丁寧な説明でスムーズに実施できるようをお願いしたい。 |
| 要望2 | コロナ禍による現場のマンパワー不足に対し、山形市関連の医療機関、保健所、高齢者施設、看護学校等の人材確保、離職防止、メンタルサポート等の強化をお願いしたい。保健所については、政府の政策による保健師増員計画の確実な実現と業務量に応じた支援体制の構築をお願いしたい。 |
| 要望3 | 山形市の感染拡大防止のための医療機関・介護施設・訪問看護ステーション・行政との情報共有、支援体制、連携について「見える化」を図り広く周知することで、安心して働ける環境づくりをお願いしたい。 |
| 要望4 | 看護職の処遇改善について、政府の方針に基づいて速やかに実現されることをお願いしたい。 |